

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 2 年 7 月 6 日現在

機関番号：12301

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2015～2019

課題番号：15K11499

研究課題名（和文）助産基礎教育機関と臨床の協働による助産実習指導者養成プログラムの開発

研究課題名（英文）Development of Clinical Practice Instructors Education Program by Collaboration with Midwife Education Institution and Practical Facilities

研究代表者

常盤 洋子（TOKIWA, YOKO）

群馬大学・大学院保健学研究科・教授

研究者番号：10269334

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は助産教育機関と実習施設の協働による助産実習指導者を養成するプログラムを開発することを目的とし3つの成果を得ることができた。実習指導者が認識している実習指導者の役割を明らかにした。実習指導者が学生指導で大切にしていること、気をつけていること、困難だと感じていることの認識から助産実習指導に必要とされる能力を検討した。助産教育機関と臨床の協働型助産実習指導者養成プログラムを作成した。助産教育機関と臨床の協働型実習指導者養成プログラムは、新人助産師の助産実践能力および助産師としてのキャリア形成・発達を見据えた実習指導が実践できる臨床指導者の育成をめざせることが示唆された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

助産実習指導者方が認識している実習指導者の役割と助産実習指導者に必要とされる能力が明らかにされた。また、本研究の成果を基に作成した助産基礎教育機関と臨床の協働型実習指導者養成プログラムの実践により、新人助産師（日本看護協会が公表した助産師クリニカルラダーレベル新人、レベル・）の助産実践能力をふまえた助産師教育を実践することができ、助産基礎教育卒業時の到達レベルを上げる素地を形成することができる。さらに、臨床指導者がプリセプター育成における新人助産師教育の支援プログラムの開発に貢献する波及効果を期待することができ、助産師基礎教育の段階から助産師のキャリア発達を見据えた教育が実践できる。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study was to develop a program to train midwifery training instructors through collaboration between midwifery education institutions and practical training facilities, and we were able to obtain three results. This paper clarifies the role of the practical training instructor recognized by the practical training instructor. The ability required for midwifery practical training guidance was examined from the recognition that the practical training instructor felt important. A cooperative midwifery training instructor training program between a midwifery education institution and clinics was prepared. It was suggested that the cooperative practical training instructor training program of the midwifery education institution and the clinic aimed at the training of the clinician instructor who can practice the practical training instruction with the view of the midwifery practice ability of the new midwifery and career formation and development as the midwifery.

研究分野：助産学

 キーワード：助産師教育 助産師基礎教育 助産実習 助産実習指導者 臨床との協働 実習指導者養成プログラム
 実習指導者の困難 実習指導者に必要な能力

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

近年、産科医師の不足、分娩施設の集約化、ハイリスク妊娠・分娩の増加等、産科医療の危機的な状況により、安全と安心を保証する周産期医療の構築が喫緊の課題となっている。そのような状況の中、自律して助産活動が実践できる助産師の活動に期待が高まっている。一方、新人助産師のリアリティショックによる離職を背景に、新たに業務に従事する看護職員の臨床研修等の努力義務が制度化された(平成22年)。平成23年に「新人看護職員研修ガイドライン」(厚生労働省)が公表され、新人助産師が就職後1年以内に到達すべき助産技術の到達目標が示された。日本看護協会は「新卒助産師研修ガイド」(平成24年)の中で、助産師のキャリアパスとクリニカルラダーを明示し、助産基礎教育から助産師のキャリア形成・発達を志向する重要性を示した。

平成25年度の助産師学校・養成所の学校数は172校で、その内訳は、専門職大学院1校、大学院24校、大学75校、大学専攻科20校、大学別科7校、専修学校43校であった。様々な教育機関で助産基礎教育が展開される中、助産基礎教育で修得する助産実践能力と臨床現場で必要とされる助産実践能力との乖離が指摘されており(福井,2014;村上2013;津田2019)、その乖離がリアリティショックによる新人助産師の離職の一因であると報告されている(福井,2012;赤星,2009)。その乖離を埋めるためには、助産基礎教育の段階から助産師のキャリア形成を志向する教育の展開が求められる。

助産師のキャリア形成は助産の実践を通して獲得されるものであり、助産実習における臨床指導者の学生への関わりは重要な意義をもち、臨床教育者としての役割を担う。日本看護協会による助産実習の受け入れに関する全国調査(岩澤,2013)によると、臨床指導者向けの研修(院内院外含む)を受けている指導者は46%であった。厚生労働省の委託事業である都道府県保健師助産師看護師実習指導者講習会は、看護師教育指定規則に焦点をあてた実習指導者養成プログラムであり、助産実習指導者養成プログラムとはなっていない。また、助産師教育に関する先行研究において、助産実習指導者の役割や実習指導者の役割遂行上必要とされる能力は解明されていない。助産実習指導者を養成するために、助産基礎教育機関が臨床と協働して助産実習指導者養成プログラムを開発する必要がある。

2. 研究の目的

本研究は、助産実習指導者(以下、実習指導者とする)の役割と役割遂行に必要な能力について、実習指導者を対象とした実態調査を実施し、これを根拠に助産基礎教育・臨床協働型助産実習指導者養成プログラムを開発することを目的とした。

具体的には、以下の3つの目的を設定した。

助産実習指導者が認識している役割を明らかにする。

助産実習指導者に求められる能力を明らかにする。

助産基礎教育機関と臨床の協働型助産実習指導者養成プログラムを作成する。

3. 研究の方法

【研究デザインと調査期間】

本研究は、質的なテキストデータを使用した量的記述的研究である。調査期間は、平成27年8月~9月であった。

【研究対象者】

関東甲信越地区の分娩介助実習施設25施設で、分娩介助実習指導を担当している助産師189名に質問紙を配布し、113名(回収率59.8%)から研究協力の同意が得られた。属性のみの回答等回答の欠損があった17名と分娩介助実習指導をしていないと判断された4名を合わせた21名を除外し、最終的に有効回答と判断された90名(有効回収率79.6%)を分析対象とした。

【調査方法】

助産師教育及び除算実習指導者育成に関する先行研究を参考にして独自に作成した無記名自記式質問紙調査を実施した。質問紙は、基本的属性(年齢、助産師経験年数、分娩介助次週指導経験の有無、指導者経験年数、実習指導者講習会受講の有無)と分娩介助実習指導における実習指導者の役割と役割遂行上の困難な内容をとらえる文章完成法と自由回答法から構成された。

文章完成法の刺激語は以下の3つである。

「分娩介助における臨床実習指導者として私は、_____」

「私が考える分娩介助実習における臨床指導者の役割は、_____」

「私が分娩介助実習で学生に指導したいことは、_____」であった。

自由回答法の質問内容は以下の3つである。

「分娩介助実習で学生に指導している中で困難だと感じていることとその場面」

「分娩介助実習での学生指導で大切にしていること」

「分娩介助実習での実習指導で気をつけていること」の3つを設定した。

【分析方法】

無記名自記式質問紙調査で収集したテキストデータをテキストマイニングソフトText Mining Studio Ver4.2を用いて自然言語処理による量的言語解析を用いて分析した。

なお、本研究は、群馬大学医学部疫学研究倫理審査委員会の承認を得て実施した(承認番号26-70)。回答された質問紙の郵送をもって同意とみなした。

4. 研究成果

1) 対象者の属性

対象者の年齢は、20歳代が9名(10.0%)、30歳代が38名(42.2%)、40歳代が27名(30.0%)、50歳代以上が16名(17.8%)であった。助産師経験年数は、中堅(4~9年)が28名(31.1%)、熟練(10年以上)62.9%であった。分娩介助実習指導における指導経験年数は、0~3年が29名(32.2%)、4~9年が40名(44.4%)、10年以上が21名(23.3%)であった。実習指導に関する講習会の受講経験がある対象者は、40名(44.4%)、受講経験がない対象者は50名(55.6%)であった。

2) 原文の基本情報

文章の特徴を量的にとらえ、使用していることばの豊富さを明らかにする原文の基本情報を、語彙の豊富さを表す指標であるタイプ・トークン比(以下、e Token Ratio、TTR)で示す。TTR = 単語種別数 / 延べ単語数から算出し、数値が1に地区なるほど語彙が豊富であることを表す。「分娩介助実習における臨床実習指導者として私は、」のテキストデータは、総行数81行、平均行長18.1、総分数115文、平均文長12.8文字、延べ単語数495個で、TTRは0.51であった。

「私が考える分娩介助実習における臨床指導者の役割は、」のテキストデータは、総行数86行、平均行長21.8、総文数142文、平均文長13.2文字、延べ単語数684個で、TTRは0.41であった。

「私が分娩介助実習で学生に指導したいことは、」のテキストデータは、総行数85行、平均行長24.5文字、総文数159文、平均文長13.1文字、延べ単語数716個でTTRは0.48であった。

「分娩介助実習での学生指導で大切にしていること」のテキストデータは、総行数87行、平均行長33.8文字、総分数247文、平均文長11.9文字、延べ単語数1019個でTTRは0.45であった。

「分娩介助実習で学生に指導している中で困難だと感じていることとその場面」のテキストデータは、総行数84行、平均行長34.4文字、総分数163文、平均文長17.7文字、延べ単語数1045個で、TTRは0.47であった。

「分娩介助実習での実習指導で気をつけていること」テキストデータは、総行数87行、平均行長30.6文字、総分数213文、平均文長12.5文字、延べ単語数971個で、TTRは0.47であった。

3) 本研究で得られた主な成果

(1) 実習指導者が認識している実習指導者の役割

分娩介助実習指導者が認識している実習指導者の役割について、「分娩介助実習における指導者として私は、____」と「私が考える分娩介助実習における臨床指導者の役割は、____」の認識から、助産実習における実習指導者が認識している実習指導者の役割を明らかにした。

「分娩介助実習における指導者として私は、____」で得られた指導者の思いや考えについてのことばネットワーク分析から、指導者が認識している臨床実習指導者の役割が4つ抽出された。具体的には、【指導者として責任や指導ポリシーをもつ】【母児の安全と産婦が満足のいく分娩への思いを尊重する態度を示す】【アセスメントや技術、産婦との関係性について十分な学びになるように支援する】【学生と一緒に学び、考え、分娩介助を行う】【学生の不安や緊張を表出し分娩介助しやすい環境を作る】であった。

「私が考える分娩介助実習における臨床指導者の役割は、____」で得られた臨床指導者の役割認識についてのことばネットワークの分析から4つの役割認識が示された(図1)。

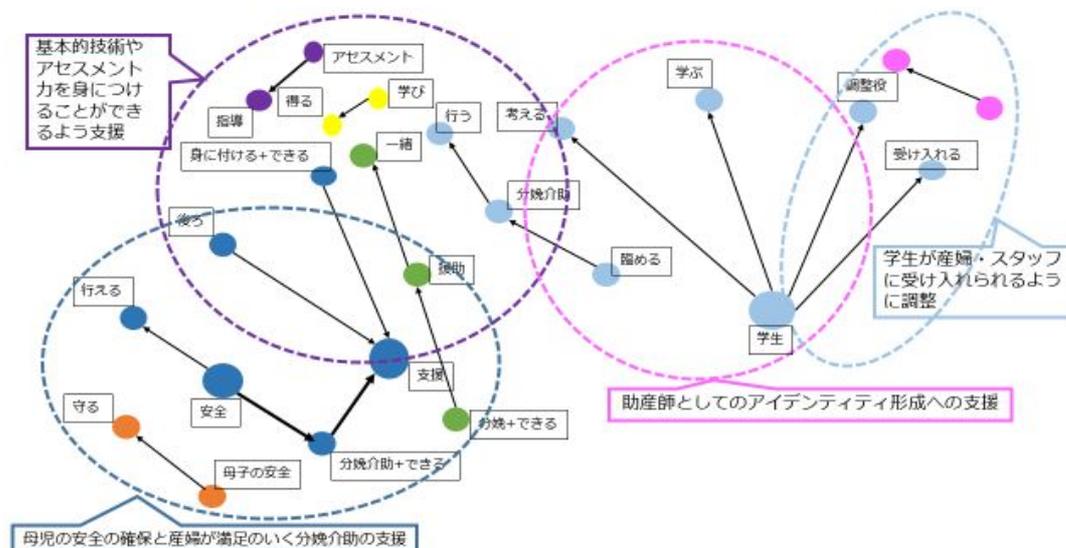


図1 助産実習指導者としての役割認識のことばネットワーク分析

(2) 助産実習指導者に求められる能力

「私が分娩介助実習で学生に指導したいことは、_____」、「分娩介助実習で学生に指導している中で困難と感じていること」、「分娩介助実習での実習指導で気をつけていること」、「分娩介助実習での学生指導で大切にしていること」について、ことばネットワーク分析と特徴語分析、対応バブル分析の結果(図2~図5)から助産実習指導者に求められる能力を表すキーワードを抽出した(表1)。

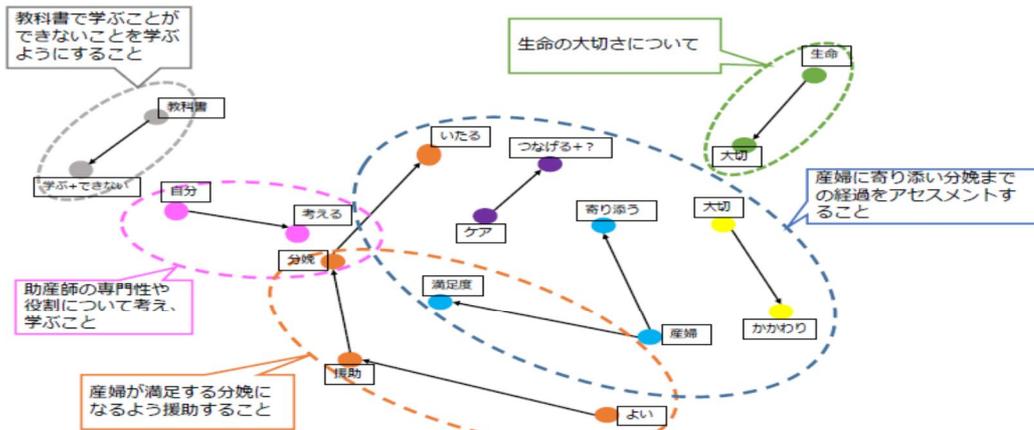


図2 分娩介助実習で学生に指導したいことのことばネットワーク分析

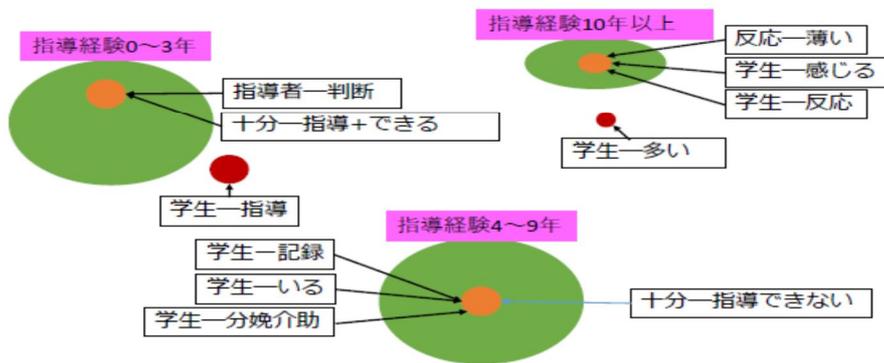


図3 分娩介助実習指導で困難と感じていることの対応バブル分析

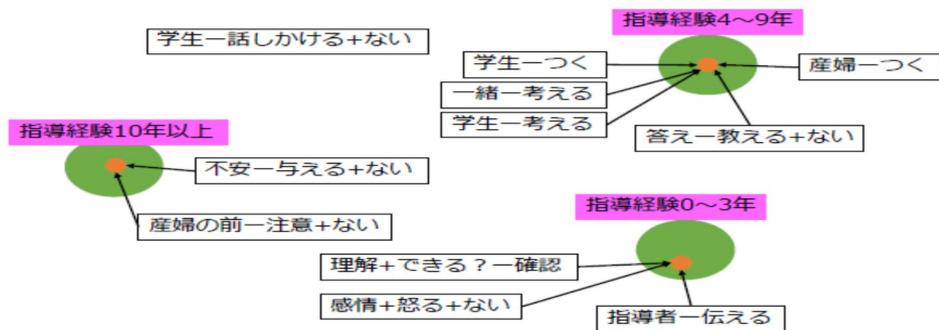


図4 分娩介助実習指導で気をつけていることの対応バブル分析

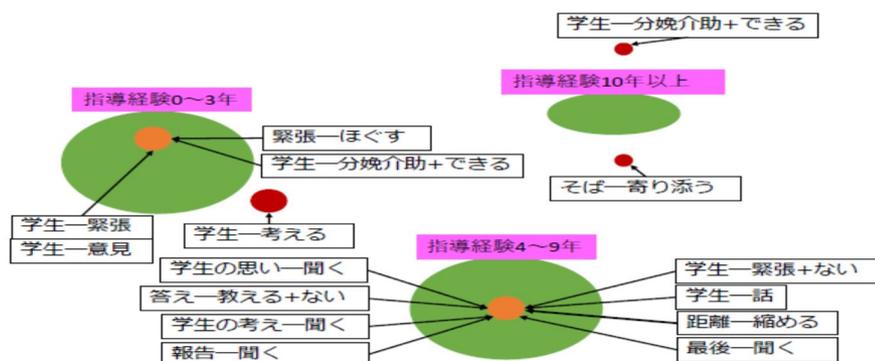


図5 分娩介助実習指導で大切にしていることの対応バブル分析

表1 助産実習指導者に求められている能力

項目	カテゴリ	必要な能力を表すキーワード
私が分娩介助実習で学生に指導したいことは、	生命の大切さについて 産婦に寄り添い分娩までの経過をアセスメントすること 産婦が満足する分娩介助になるようにケアすること 助産師の専門性や役割について考え学ぶこと 教科書で学ぶことができないことを学ぶこと	産婦に寄り添う 経過アセスメント 産婦の満足 ニーズに応える助産ケア 助産師の専門性と役割
分娩介助実習で学生に指導している中で困難と感じていること	分娩進行者が複数いる場合や緊急時に学生指導が不十分になること 分娩待機が長くなることで学生への負担が大きくなること 学生とのコミュニケーションがうまくとれないこと	助産師業務と指導者の役割 学生のメンタルヘルス 学生と指導者の関係性
分娩介助実習での実習指導で気を付けていること	学生が自分の考えやアセスメントを報告しやすい雰囲気や環境を作る 命にかかわる重大さが理解できているか確認する 産婦や家族に不安を与えないようにする 産婦と学生の関係性に配慮する	学生と指導者との良好な関係性 分娩の安全性の確保 学生と産婦・家族との良好な関係性
分娩介助実習での学生指導で大切にしていること	学生に考えさせること 学生が主体的に分娩介助できるように配慮すること 分娩介助が安全に終了すること	リフレクション 学生の思考力 学生の主体性を引き出す 安全な分娩介助

4) 助産基礎教育機関と臨床の協働型助産実習指導者養成プログラムの作成

助産師のアイデンティティおよびキャリア形成支援を基盤とし、安全および対象者のニーズにこたえる自律的な助産師活動が実践できることを志向した助産基礎教育機関と臨床の協働型助産実習指導者養成プログラムを作成した(図6)。本プログラムの実践により助産基礎教育の段階から助産師のキャリア形成の支援ができる可能性が示唆された。

図6 助産基礎教育機関と臨床の協働型助産実習指導者養成プログラム

【助産実習指導者に求められる資質】

1. 自律して助産活動が実践できる助産師モデルであること
2. 安全で効果的な実習指導ができること
3. 対象者のニーズにこたえる助産ケアを提供できること

研修項目	研修のねらい・目的	内容	方法	担当者
実習指導の原理	・助産師教育の現状と課題を理解する	・看護系大学のカリキュラムにおける臨床実習の位置づけ	講義	教員
	・助産師教育における臨床実習の意義を理解する	・地域完結型看護実践に向けた、地域での暮らしをつなぐ在宅看護の視点		
学生の理解	・青年期の発達課題とキャリア形成を理解する	・青年期の発達課題と助産師のクリニカルラダーとキャリアラダー		
学習環境の整備	・助産実習担当教員と臨床の連携の重要性と方法について理解する ・指導体制の整備について理解する	・助産実習における担当教員と臨床指導者の連携 ・学習環境と指導体制	講義	臨床指導者
助産実習における教授案	・実習指導における具体的な教授案作成の意義を理解する	・実習指導教授案作成の意義 ・実習指導教授案を構成する要素(指導観・学生観・教材観等) ・日々の看護実践を意味づける実習指導における目標設定	講義	教員
実習指導の評価	・実習指導における評価の意義を理解する ・教授案に基づく評価方法を理解する	・助産実習指導における評価の意義と方法	講義 演習	教員 臨床指導者
実習指導の方法	・学生が実習を効果的に行えるための教材化について理解する	・臨床実習における状況を教材化するにはどうすることなのか ①具体的な事例を用いて教材化を体験してみる ②発表・まとめ	講義 討議	教員 臨床指導者
実習指導の方法	・学生の学びを深めるためのリフレクションの意義と方法が理解できる	・リフレクションの意義と方法と実践に向けた課題(事例検討;グループディスカッション)	講義 討議	教員 臨床指導者

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 貞形衣恵、常盤洋子、國清恭子、島名梨沙、鈴木禎子
2. 発表標題 分娩介助実習指導における臨床実習指導者の役割についての思いや考えに関する研究
3. 学会等名 第31回日本助産学会学術集会
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	小泉 仁子 (KOIZUMI HITOMI) (20292964)	筑波大学・附属病院・看護部長 (12102)	
研究分担者	國清 恭子 (KUNIKIYO KYOKO) (90334101)	群馬大学・大学院保健学研究科・講師 (12301)	
研究分担者	高津 三枝子 (TAKATSU MIEKO) (90557290)	群馬大学・大学院保健学研究科・助教 (12301)	
研究分担者	深澤 友子 (FUKAWASA TOMOKO) (80632843)	群馬大学・大学院保健学研究科・助教 (12301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	濱崎 真由美 (HAMASAKI MAYUMI) (90352335)	宮崎県立看護大学・看護学部・准教授 (27602)	
研究分担者	貞形 衣恵 (SADAKATA KINUE) (40759792)	群馬大学・大学院保健学研究科・助教 (12301)	
研究分担者	鈴木 禎子 (SUZUKI TEIKO) (30781934)	群馬大学・大学院保健学研究科・助教 (12301)	